

編集後記

インフォメーションテクノロジーセンター所長
経済学部教授 谷田 則 幸

この2年半ほどの間は、新型コロナウイルス感染症の蔓延による影響をさまざまな面で受けてきた。2022年6月現在、大学内ではマスク着用や手指消毒などの対策は継続して行っているものの、日々の感染者も大きく減少し、ようやく長いトンネルを抜けたかのように思える。このまま、平穏な研究・教育が行える状態に戻ることを心より願う。

さて、2021年度の本年報には、ITセンター所員の先生から2篇の投稿を頂戴した。

一つ目は河野和宏氏による「文理融合学部におけるAI教育の実践：文系にもわかりやすい実習を目指して」である。政府によるAI戦略2019や2021年に文部科学省が創設した「数理・データサイエンスAI教育プログラム認定制度」などにより、大学においても文理を問わずAI人材を育成するための教育改革が求められている。関西大学においても全学あるいは各学部でそれぞれに対応しているところであり、経験に基づく多くの実践例が盛り込まれており、私自身も大いに参考にさせていただきたいと思う。

二つ目は岩崎千晶氏による「教育におけるICT活用を促す教員育成を目指したメディア教育論の授業デザイン」である。前述のAI教育改革は小・中・高等学校でも求められており、実際にそれを担うのは各学校の教員ということになる。そのため、科目を問わずICTを活用し、適切なメディアを用いながら授業を行うことができる教員を育成することは極めて重要な責務と言える。そのような教員が多くいれば、小・中・高等学校における「数理・データサイエンス・AI」の基礎的リテラシーの修得なども可能となり、大学における発展的な教育へもスムーズに移行できるものと考えられる。ぜひとも、「メディア教育論」でご尽力いただき、そのような教員が一人でも多く輩出されることを願うばかりである。

2021年度におけるITセンターの主な活動は「活動報告」に記されているとおりであるが、加えて本学にもCSIRT（Computer Security Incident Response Team: コンピュータに関するセキュリティ事故対応チーム）が発足したことをご報告したい。企業のみならず大学においてもセキュリティ対策が重要視されている。いったんセキュリティ事故が発生するとサービスの継続や復旧、法的な対応など多くの人的コストを要し、組織のイメージ低下にもつながる。CSIRTは事故が発生することを見込んだ体制づくりがなされており、有事の時にも迅速な対応が可能となる。いうまでもなく、そのような事故が起こらないようにすることが第一義であるため、事故を未然に防ぐことがITセンターの日々の業務となる。教職員・学生のみなさんが安心して利用できるICT環境を維持・提供し、CSIRTが活躍する場が生じないよう、努めたいと思う。

